

11/7

Nov 7, '04

波崎から銚子、犬吠崎、九十九里  
を回った今年の最終ツーリング  
かわらばん; 中島邦雄 挿絵; 小倉玲子

参加者、  
秋元、伊藤、内山、岡部、  
北島、斎藤、佐藤、中島、  
安田、吉野、

BMW RS Club

# かわらばん

八日市場市に近い東総広域農道から人気の無い田舎道に入り、長いなだらかな坂を下ると、日を受けてキラキラと光る房総の海が目に飛び込んできました。有料の「利根かもめ大橋」が緩やかな曲線を描いて広い河口を跨ぎ、橋の下では澄み切った川面に、ボラ釣りとおぼしき舟が舳先(へさき)を陸に向けて並んでいました。空も海も晩秋から初冬の色に変わりかけています。

今年の最後のツーリングは秋元さんの企画で、我が会には比較的珍しく房総方面に向かいました。彼が担当をした時には必ず雨に見舞われてきましたが、今回はそれらを帳消しにするかのような、それは見事な晴天に恵まれました。風も無く暖かな朝だった為か、出しなの交通情報によると、成田など千葉方面への高速道路は霧の為に通行止めとの事です。しかし日が差し始めると共にその霧も晴れ、集合場所の千葉東金道路「野呂PA」には、時間前から次々に仲間が集まり始め、岡部さんは小川町からはるばると駆けつけて「随分と走ってきてもうツーリングに行って来た気がする」と言っていました。朝からの晴天で外に出る人が多いのか、首都高速も京葉道路もかなりの混雑で、その為かと思ったら「忘れ物をして~」いつも早くに現れる安田さんが出発間際に飛び込んで来ました。穏やかで暖かな素晴らしいツーリング日和です。

かつては東関東自動車道・富里ICで降り国道296に乗り、さらに八日市場市で国道126に乗り換えて銚子方面へ行きました。しかし今では千葉東金道路が出来て、今回我々が走ったように、比較的楽に房総半島へ行けるようになりました。

東金で降りずに左へ入ると道路は一車線と狭くなりました。少し走って南京豆で名高い八街(やちまた)を抜け、終点の松尾横芝で高速を降りました。道の所どころで木々の葉が色を変え、ススキが穂先を伸ばして揺れています。そして国道126号へと入って少し走ると、旭市、銚子市方面への標識が出ていました。静かな田舎町と言った感じです。

町中の道を走り八日市場駅の先で左折をし、冒頭に書いた東総広域農道へと入りました。灌漑用水とおぼしき水路が流れ、田圃も広がっていますが農道のわりには車が多く、農道とは名ばかりでもう一般道になっている感じです。

暫く走って佐原方面のサインが有る方へ向かいました。佐原はかつてはホソと呼ばれる水路が縦横に走り、鮒釣りの著名な場所で多くの釣り人を魅了してきました。写真の被写体にも度々なった、姉さん被りにカスリの女性が小舟をさす、どこか色っぽいそんな面影は、宅地化が進むと共にもう昔の事なのでしょうか。覗いて見たいような見たくないような気持ちでした。

¥200円也を払って利根かもめ大橋を一気に渡り、千葉と茨城の県境の波崎へ向かいました。ちょうど11時に風の強い海岸線に入り防砂林の松の中を走ると、その外側の海辺には真っ白な風力発電の塔が何基も並び、海からの風を受けて赤いラインの入った三枚羽がゆったりと回っていました。駐車場にバイクを入れ真下から塔を見上げると、遠くから眺めるより遥かに大きく高く、眼下に打ち付ける荒波とのコントラストが実に見事で絵になる光景でした。

原子力発電所ではトラブルが続き、原油の値段が一時の二倍近くにもなり、それに加えて地球の温暖化問題も深刻な現在こそ、こんな自然のエネルギー供給手段には、政府も無駄遣いを止め大いに金を出してもらいたいものです。

そんな感慨を持ちながら大きな風車を眺め、一休みして茨城県から再び千葉県に戻り銚子市へと向かいました。

昼食前に海産物の土産を買う事になりました。秋元さんの話では銚子魚市場は土産物店の数も少ないので、暫く走ってから「WO'SSE21」と言う海辺の大きな市場へ行きました。まさに揚がり立てといった感じの、ピカピカなサンマが15匹¥1000円で、腹からスジコがこぼれ出そうな鮭が一匹¥2000円でした。しかし悲しいかなバイクで持てる量は限られ、私は海苔をはじめ乾燥した海草類をいろいろ買いました。12時から小一時間程の買い物でしたが、各々が大きな袋をさげていました。

毎度の事ですが、こういう廻で揚がったばかりの魚が「本当かよ~」という値段で売られているのを見ると、釣れるかどうかも分からぬのに、早起きをして高い金を払って船に乗り、汚い格好で釣りに行くのが馬鹿らしくなるのは私だけでしょうか。

潮の香をかぎながら海岸線を走っていると、どこか心が和むのは生命の起源が、海から始まったからだと納得しました。

15分ほど走って一時半に犬吠電鉄、いぬぼう駅のレトロ調な駅舎の前に到着し、その前に有る大きな駐車場にバイクを並べました。その少し先に今日の食事処「島武」が有り、外まで行列が出来ているのが見えます。一階は回転寿司、二階は料理の店で二階には予約が入れてありました。私が伊藤さんは寿司が希望で、暫く待って混み合うカウンターに座りました。ネタの数は余り多くありませんでしたが、確かに新鮮でタコにいたっては20センチ程もあり、伊藤さんはその一皿で腹が張り、他の寿司が余り食べられなかったそうです。ちなみに私は中トロや生海老など六皿食べて¥1820円でした。我々の食事が済み二階の仲間の様子を見に行くと、皆が大きなキンメダイの煮付けにかぶりついています。飯と汁それにサラダと漬物が付いて¥2100円だそうです。ところが内山さんは¥5000円の定食に挑戦し、煮魚、焼き魚、刺し身、汁、漬物そして寿司が出て来たとか。余りの食欲に驚いて一足先に店を出て、イヌボウ駅舎に入り土産物を眺めました。銚子名産の醤油を使って、目の前で煎餅を焼いていましたが、煎餅屋さんの町田さんが居たら、どんなものか食べてもらいたいところでした。

腹も膨らみ満ち足りた気分で帰途に就きました。「飯岡」方面へ進みました。飯岡は江戸後期の博徒で、篠川の繁蔵との出入りで名をはせた、あの飯岡の助五郎で知られた場所です。

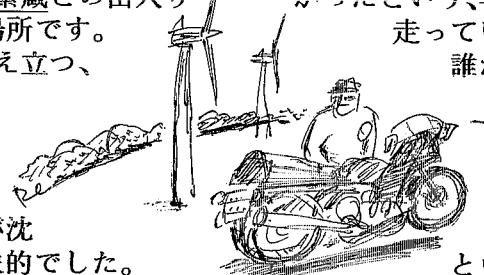
犬吠埼灯台に向かって走ると海に向かって聳え立つ、あの荒々しい岸壁が切れ切れに見えました。

荒波の打ち付ける九十九里波乗り道路へは入らずに、その道に平行するよう

町中の道を走りました。左手には海が時折

顔を出し、その海を見ながら走りましたが日が沈み始め、その日を受けて光り輝く海と空が印象的でした。

東京から銚子迄は150キロ近い距離で、冬の日はツルベ落としです。急がないと東京へ着く頃は暗い中を走る事になりました。



三時を回り旭市へ入った廻で、右から来た車を全く見てなかったという、年寄りの車と私が接触して転倒し、先に走っていたメンバーも戻って来てくれました。

誰かが警察に連絡しましたが、田舎のこと

で全てがノンビリ。お爺さんはポリ公

に聞かれてオタオタしていました

が、2~3台のバイクが行ったので

右を見ずに出了と言っていました。

皆さんには先に帰ってもらい、安田さん

とウインドウを拾って付け、二人で走って

戻りましたが、左右のミラーが無く、大渋滞で真っ

暗な高速での、車間の擦り抜けは本当に怖いものでした。

フラット・ツインの左エンジンが相手のライト下に当たり、幸いにもフォークの狂いは無く走行に支障が有りませんでした。千葉東金道路から京葉道路へと大渋滞の中を安田さんの先導で走り抜け、七時前に日暮里の彼の店に無事に帰り着きました。例え貴い事故だったとはいえ、今年最後のツーリングで楽しい一日だったのが、こうした事で一緒に走った皆さんにご迷惑をお掛けしたことを心苦しく思っております。ちなみに体の方は骨折も無く、全治二週間の打撲という診断でした。

今回の担当の秋元さん、いろいろ有り難うございました。忘年会の予約も取りました。多数のご参加をお待ち致します。